

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401012号		
法人名	アトム商事株式会社		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	札幌市西区西町北12丁目4番7号 電話： 011-664-3773		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月9日	評価確定日	平成20年7月21日

【情報提供票より】 (平成20年 6月 24日事業所記入)
(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年 3月 8日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 3 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 20,000円 暖房費(10-4月): 8,000円
敷金	(有) 45,000 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	230 円	昼食 230 円
	夕食	540 円	おやつ (夕食に含む) 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (6月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	2 名	要介護 4	0 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック なかお歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームあすか」は、近くに公園、児童館、店など、生活環境に恵まれた住宅街にある。外玄関の横にテーブルと椅子が設置されており、利用者は日光浴や近くを散歩する人との会話を楽しみ、その周囲で職員と一緒に花やプランター野菜を育てている。また、公園を散歩する中で遊びに来た子供たちと話を交わすなど、日常的な生活が実践されている。運営者は家族の介護体験から認知症の理解が深く、利用者が人として大切にされるケアサービスの実現に向けて熱心に取り組んでいる。管理者と職員は一人ひとりの表情や言動から思いを汲みとり、あたたかい見守りで「その人らしい暮らし」を共に過ごしながら引き出すように支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、既存の理念を分かりやすい表現で見直し地域密着型サービスの大切さを再確認するため、運営者、管理者、全職員は理念の共有に時間をかけ丁寧に進めた。その他の項目では、継続して取り組んでいるところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価では全職員が評価表に記入し、話し合ったものを管理者が中心にまとめた。管理者、職員は評価の意義を前向きに捉えケアに反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では理念についての意見を求めたり、外部評価の結果を報告し参加者からの要望を取り入れたりと、会議を効果的に活用している。今後もサービス向上に生かすため、会議の内容を職員間で話し合う場を作る予定である。管理者は月に1回は区の担当窓口を訪問し、情報を提供する中で意見の交換や相談できる関係づくりを考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回発行の「あすか便り」に、行事や写真を載せた全体的なものに個人へのメッセージ欄をつくり報告しており、訪問時には家族が意見や苦情を言いやすいように配慮している。現在、家族の意見を汲みとる方法として家族会のありかたを話し合っており、秋頃には設置の予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年ホームの納涼祭には家族、運営推進委員、地元の人を招待し、利用者は多くの参加者とお祭りを楽しんでいる。今後も身近なところでの交流や小学校及び児童会館などからの来訪で子供と交流できる定期的な取り組みに期待したい。前回の外部評価を踏まえ、町内清掃に利用者の参加を検討したが状態の低下があり実現していない。現在は運営者が中心に地域の活動に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	既存の理念を見直し、現状にあった分かりやすい表現になっている。運営推進会議に意見を求め、理念の意義を職員に説明後、全職員の考えをアンケートにとり、それらを全員で話し合い、新たに作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を作る過程で職員は理念の大切さを再確認する機会になった。理念は居間の見やすい所に掲示しており、ミーティング時には全員で唱和し、日々のケアを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの昨年の納涼祭には50人ほどの参加があり関係者や地元の人と交流ができた。前回の外部評価を踏まえ、町内清掃に利用者の参加を検討したが状態の低下があり実現していない。現在は運営者が中心に地域の活動に積極的に取り組み、「子供SOS」にも協力している。	○	外玄関の横にテーブルと椅子が設置され、近所の人と一緒にお茶を飲んだり、また、公園を散歩し子供たちとの会話を楽しんだりしているので、身近なところでの交流に期待したい。以前には小学校や児童会館などからの来訪があったので定期的な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では全職員が評価表に記入し、話し合ったものを管理者が中心にまとめた。前回の外部評価を踏まえ、職員間で理念の見直しと共有に時間をかけ丁寧に取り組んでいる。運営者、管理者、職員は評価の意義を前向きにとらケアに反映させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では理念についての意見を求めたり、外部評価の結果を報告し参加者の要望を取り入れるなど、前向きに活用している。今後は会議内容を報告し、ミーティングなどで話し合う予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の管理者会議に参加し、情報交換する程度になっており、市町村との具体的な取り組みは特にない。	○	市町村との連携を図るためにも、月に1回は区の担当者に会う機会を作り、情報を提供する中で意見の交換や相談できる関係づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回「あすか便り」を発行し、行事や写真を載せた全体的なものや個人へのメッセージ欄をつくり報告している。本人の状況を家族の来訪時や必要な時には電話で伝え、職員も対応できるようにしている。また、金銭出納の明細書等のコピーも毎月送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情を言いやすいように雰囲気作りをしている。意見があった時には職員間で話し合い、内容によってはミーティングに運営者も参加し対応への改善に努めている。現在、家族の意見を汲みとる方法として家族会のあり方を話し合っており、秋頃には設置の予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が代わるのは好ましくないと理解し、離職を抑えるように努めている。職員が辞めた時には、馴染みの職員が寂しさに配慮している。家族や本人が尋ねた場合には理由を説明しているが、定期的な報告はしていない。現在、利用者、家族への説明の方法を探っているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が外部研修を平均して受講できるように日程を調整しており、今後は段階に応じた研修計画のもとに職員の育成を考えている。研修の内容をミーティングなどで報告し内部研修の一環として充実させていく予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者間の見学や他ホームの利用者を招待したり、一緒に「イチゴ狩り」に行くなど、運営者、管理者が中心になってネットワークづくりに努めている。管理者会議の研修や交流に、職員も参加できるように進めているところである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学し入居を決めてきたが、今後は本人にも事前の見学を勧め安心して入居できるように配慮する。入院中の希望者には管理者と職員が挨拶の訪問で顔見知りになり、入居後に場の雰囲気に馴染めるような支援を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は居間で過ごすことが多く、職員は「おはじき」「あやとり」など、昔の遊びごとを教してもらったり、園芸を学んだり、おやつに「白玉だんご」を教わるなど、できる場面をつくり共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後、本人の意向を聞くようにしている。意思表示が困難な場合には表情や言動から思いを汲みとるように職員間で情報交換をし意向に沿う支援で対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成担当者が職員から日頃の状況や、本人、家族の意見や要望を聞き作成している。作成した介護計画は、ミーティングで話し合い、管理者、職員が情報を共有して誰でも家族に説明できるようにしている。説明後、署名捺印を受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、3ヶ月毎の介護計画の見直しを行い、体調変化などで計画の見直しが必要な時は、状況に応じて随時見直しを行っている。常に、利用者の現状に即した支援を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制を取っているため、協力医療機関の医師の指示により、事業所での点滴治療が可能になっている。通院は、家族が高齢などで送迎が難しい時は、職員が同行するなど臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医は、本人や家族の希望に応じて、継続して受診を受ける事ができる。受診に家族のみが同行する場合、日常の状態を手紙に書いて、血圧データなどと共に持参して貰うようにしている。職員に2名の看護師がおり、健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回の外部評価を踏まえ、重度化した場合と看取りに関する具体的項目を入れた指針を作成し、家族と本人に説明して署名を貰っている。今後の入居者に対しては、入居時に指針を説明して署名を貰う準備を整えている。	○	重度化した場合や看取りに関して、利用者の主治医と話し合いがまだ持たれていないので、今後、主治医、本人、家族、管理者、職員で話し合いを持ち、対応について方針を共有していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを損なわないように、トイレ誘導も、「話がある」と誘ったり、日々の対応では否定の言葉は使わないように留意している。対応で問題が生じた時は、その都度職員で話し合い、すぐ解決するようにしている。個人情報書類は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は、軽い言葉がけをするが無理強いすることなく、個人のペースを大切にしている。散歩や買い物、ぬりえなど、一人ひとりの利用者の希望や楽しみに沿って支援できるように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて、料理の盛りつけ、食器洗いや食器拭きなどを行っている。おやつづくりなどでは、職員と利用者が一緒に簡単な調理をする事もある。必要に応じて食事介助をしながら、職員も一緒に楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からの入浴が可能であり、入浴の順番も利用者の希望を取り入れながら行っている。浴槽に入るのが困難な時は、シャワー浴や体調により足浴などを行っている。入浴拒否者に対しては、職員が代わったり場所を変えたりして入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ギター演奏やマジックなどのボランティアの人に来て貰って楽しんだり、利用者の好きなゲームなどを多く取り入れて楽しく過ごせるように配慮している。散歩、読書、園芸など利用者が好む事を積極的に取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者や一人で外出する利用者には、職員が個別に付いて一緒に外出している。極端な外出希望者により、職員が手不足になるので、今後はボランティアなどを活用して少しでも多く外出支援する予定である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、9時から19時まで開鍵しており出入りは自由になっている。玄関に床センサーを設置し、不意の外出にも職員が対応できるようにしている。警察のSOSネットワークに登録して利用者の安全に留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと年1～2回、利用者も参加して避難訓練や消火器の使い方の訓練を行っている。前回の外部評価を踏まえ、職員の対応マニュアルと緊急マニュアルを整備し、次回の運営推進会議時には避難訓練を予定している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部委託のため、栄養バランスの取れた献立になっている。水分摂取量は、毎日記録して把握している。前回の外部評価を踏まえ、水分拒否が強い利用者には、水分の種類を変えたりして対応している。食事量は、摂取量が少ない利用者のみ記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に、七夕の短冊など季節感のあるものや、利用者と職員が制作したちぎり絵などが飾られ自分の家と思えるような工夫をしている。利用者は思い思いのソファで、居間の大きな窓から戸外の様子を見ながらゆったりと居心地よく過ごしている。居間の横が台所になっているため、食事の準備の音や匂いなど生活感を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れた家具や写真、職員手作りの誕生日カード、母の日のカーネーションなどが飾られ、落ち着いて生活できる空間になっている。それぞれの居室の入り口には、職員手作りの表札がかけられ細やかな配慮がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。